

おぢか



こうみんかん

LOVE 平成29年 2月13日 第123号 だより

節分の後の立春と暦の上でははるなのにこの冬一番の寒波がやって来て大荒れの天気でした。幸い小値賀は大雪にはなりませんでしたがまだまだ油断できません。皆さん体調には充分気を付けてください。

おぢか山学校・料理教室を開催しました！

1月29日(日)、若者交流センターにおいて「おぢか山学校・料理教室」を開催しました。当日は21名の参加者が集まってくれました！

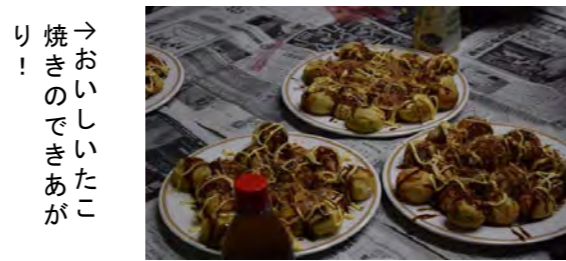
今回は婦人会のみなさんの指導の下、たこ焼きづくりに挑戦しました。たこ焼きの中にはタコだけではなく、チーズやウインナーなどいろんな食材が入っていました。全ての班が無事きれいにたこ焼きを作ることができました。

最後に全員で試食となりましたが、焼きたてのたこ焼きはとてもおいしかったです。

参加者、そしてご協力いただいた婦人会のみなさん、本当にありがとうございました！



命を懸けています！



焼きたてのたこ焼きが

図書館から新刊図書の紹介

- 【一般書】
 - ◆また会いたいと思われる人になる大人の教科書
 - ◆トランプショックがせまる - 貿易戦争・核戦争の危機 -
 - ◆天皇「生前退位」の真実
 - ◆最後の秘境 東京藝大 - 天才たちのカオスな日常 -
 - ◆身近な人が がんになったときに役立つ知識76
 - ◆賞味期限のウソ - 食品ロスなぜ生まれるのか -
 - ◆書かずに貯まる！クリアファイル家計簿
 - ◆はじめてのつるし飾りとちりめん細工
 - ◆「留守番めし」の作りおき
 - ◆すっきり暮らすための収納のコツ
 - ◆香りを楽しむ庭木の本
 - ◆正倉院宝物 - 181点鑑賞ガイド -
 - ◆アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書
 - ◆はじめての連句 - つくり方と楽しみ方 -
 - ◆虚実妖怪百物語(序・破・急)全3巻
 - ◆みやこさわぎ(お薦さんの神楽坂日記)
 - ◆土の記(上・下)
 - ◆under the bridge
 - ◆恋の Gondra
 - ◆梅もどき
 - ◆夜行
 - ◆美食と嘘と、ニューヨーク
- 【日高 利美】
- 【日高 義樹】
- 【高森 明勅】
- 【二宮 敦人】
- 【内野三菜子】
- 【井出 留美】
- 【いちのせ かつみ】
- 【山口 信子】
- 【牧野 直子】
- 【三上 常夫(他)】
- 【杉本 一樹】
- 【ステイブン E. ルーカス】
- 【坂本 砂南(他)】
- 【京極 夏彦】
- 【西條 奈加】
- 【高村 薫】
- 【堂場 瞬一】
- 【東野 圭吾】
- 【諸田 玲子】
- 【森見登美彦】
- 【ジェシカ・トム】



大盛況でした！！

【とくべつな おはなし会】

絵本の世界を堪能しながら、楽しい時間を過ごしました★

【しおり作り教室】

できた菜が

- 【児童書】
 - ★十一月のマーブル
 - ★なきむしに かんぱい！
 - ★ハリー・ポッターと呪いの子
 - ★クマのプー(世界一のクマのお話)
 - ★外来生物ずかん
 - ★火を使わないで作るごはん
 - ★すこいぞ！ やさいーズ
- 【戸森 しろこ】
- 【宮川 ひろ】
- 【J. K. ローリング】
- 【A. A. ミルン(原案)】
- 【寺西 恵里子】

今年もやります！第4回おぢか映画祭

今回の上映作品は！？

①シーンス

開場：9時30分 上映：10：00

2万年前の氷河期から現在に至るまでの生命の壮大な歩みを描いた、全く新しい ネイチャードキュメンタリー。

上映日：平成29年2月26日(日)

場所：離島開発総合センター町民ホール

チケット料金
大人 前売り券500円、当日券600円
小学生～高校生 前売り・当日 100円
小学生未満は無料です。
※チケット1枚で両方の作品が見れます。

チケット販売店舗
エイダン、大阪屋、丸佑、漁協ストア
横山文具店、江川商店、松原商店
役場住民課、小値賀町公民館、図書館

お問い合わせ：おぢか映画祭実行委員会 (0959-56-3838)

②はなちゃんのみそ汁

開場：12時45分 上映：13：15

日本中が涙した！ベストセラー実話エッセイを映画化！
ちゃんと作る、ちゃんと食べる、大切な家族へ、愛するひとへ伝えたい、いのちのメッセージ

遊遊句抄

兼題 初湯 新年会 寒の雨

居眠りて顔を上げあげ初湯かな 今日こそは読み耽りたり寒の雨	松月
たつぷりの初湯につかり身を癒す おくりもの温泉浴の初湯かな	香松
孫増えてジュースの増えて新年会 菜畑は爺の楽しみ寒の雨	紫紅
うっとり赤児初湯に初うんこ 犬猿の二人どうなの新年会	虫砂男
深寝する夫より先の初湯かな この身にも降らば降れよと寒の雨	静帆
初湯して六社詣での身捨へ バス待てば夕の暗さや寒の雨	値賀助
波消しや初湯に沈む吾がふぐり ジャニス聞きテイランを唄ふ新年会	月歩
胸中の重荷おろして新年会 一芸の座を盛り上げて新年会	一穂
疲れ身に朝の初湯の褒美かな 静けさに逝き人想う寒の雨	小梅
新年会会はずして友と飲む 寒の雨スルメ炙りて早仕舞い	利石
おめでとう銭湯賑わう初湯の日 新年会文化の重鎮勢揃い	姜リリ

『第34回 少年の主張発表大会』発表原稿紹介

平成28年11月12日（土）に開催された「第34回少年の主張発表大会」。おぢか新聞の最優秀受賞作品紹介に合わせて、公民館だよりでも優秀・入選作品を紹介しています。今回紹介するのは高校生の部の作品です。子どもたちの主張に是非、耳を傾けてください。当日は残念ながら欠席となった平田翔さんの原稿もこの場で紹介させていただきます。

高校生の部 題：「幸せの在り方」

北松西高校2年 平田 翔（ひらた かける）

「あなたにとっての幸せとはなんですか。」と聞かれた時、あなたは何と答えますか。私にとっての幸せは「人とつながり合っている」ということです。しかしながら、私は、今の日本では、人と人とのつながりがとても薄くなってきていると思います。今の日本では、科学がとても発達しており住みやすい国になっています。しかし、そのような環境の中で生きるからこそ、大事な物を見落としている気がします。それが、人と人とのつながりの大切さです。近頃、スマートフォンやパソコンなどのオンライン機器が当たり前のように使われています。私は、それはいいことだと思いません。たとえば、ラインなどの無料通信アプリです。たしかに、なかなか会うことができない友達と話をして盛り上がるることができるのは素敵なことです。しかし、今は、普段会える友達や同じ家の中にいる家族ですら、そういうアプリを使って会話をする人が増えています。これではいけません。会話はできようとも、目の前にいるのはその友達、その家族ではありません。ただの四角い機械なのです。人は、相手の顔や相手が醸し出す雰囲気、その感情を推し量ることができます。顔が見えない状態では、相手の本当の気持ちを知ること、相手に本当の気持ちを知ってもらうこともできません。それなのに、このままスマートフォンやパソコンに頼り続けていても良いのでしょうか。このようなところ以外でも、人と人とのつながりは希薄になってきています。それは、近所づきあいです。今、遠くに住んでいる顔も見ることがない人とネットを通して話したことがあるが、隣に住んでいる人とは話したことがないどころか、その人の顔も知らないという人が増えてきています。住んでいる環境が違う遠くに住んでいる人と話すのは、とてもおもしろいことだと思います。ですが、実際、何かあったときに助けてくれるのは、身近に住んでいる人たちです。現在、孤独死が社会問題になっていますが、親しい近所づきあいをすることで、そのような事態を防ぐことができるのではないのでしょうか。また、それだけに限らず、ご近所さんとしてお互いに関心を持っていれば、何かあったときに助け合うことができるはずです。これらのように、人と人との直接のつながりは、一人で過ごしたり、スマートフォンで連絡をとったりすることより価値のあるものです。ここで一つの国を紹介したいと思います。それは、ブータンです。ブータンは、幸せな国ランキングで北欧諸国に並んで第八位という高位置にいます。しかし、ブータンは決して裕福とは言えない国です。日本と競べると、とても貧しいところですが、それに関わらず、二〇〇五年の国勢調査では、約九七%の国民が「幸せだ」と答えています。それは、人と人とのつながりを大切にしているからだ、私は思います。ブータンに行った日本人が、「ブータンの風景は昭和の日本を思わせる」と語っている記事を読んだことがあります。お金や便利なものをたくさん持っておらず、日々の生活を送るのが大変でも、人と人が支え合って生きていた昭和の日本。それが、まだブータンにはあるのでしょうか。知り合いの五十代の男性が、「昔は良かった」と言っているのを聞いたことがあります。「今のように豊かな日本ではなかったし、もちろん嫌いな近所の人もいたけれど、それでも、みんなでワイワイやるのができて楽しかったし、暮らしやすかった」と。やはり、人は、人と人とのつながりの中に、幸せを見いだすものなのです。日本が発展するのは、とても喜ばしいことです。しかし、その発展と幸せは比例しません。発展は、世の中を便利にしてくれるものですが、本当の幸せ、つまり、人と人とのつながりを提供してはくれません。「私は一人が好きだ。一人でいたい。」そういう人がいるかもしれません。しかし、人は一人では生きていけません。また、「自分」という存在を確かなものにしてくれるのは、「他人」の存在です。「他人」がいるから、「自分」というものが、自分にとって特別な存在になるのです。みなさん、多くの人と、顔と顔を合わせて、どんどんコミュニケーションをとっていきましょう。それができるようにしてください。そうすれば、本当の幸せが見つかります。スマートフォンではなく、遠くの人ではなく、もっと身近な人を見てください。話し合い、触れあってください。頼り、頼られてください。大切に、大切にされてください。それが幸せだと、思える日が必ず来るはずです。

高校生の部 優秀作品 題：「小値賀の畜産について」

北松西高校3年 永田 雄平（ながた ゆうへい）

皆さんは、最近、小値賀がメディアに取り上げられているのをご存知でしょうか。ですが、その内容はどうでしょうか。ほとんどが民泊や野崎島についてのものだと思います。私は、小値賀にはもう一つ注目されるべきものがあると思います。それは、畜産です。なぜなら、小値賀の牛は高い評価を受けており、競りに出される牛には高い値がついています。雄で一番高いのは百万円以上、雌では七十万円以上します。また、この競りに出された子牛は、松坂牛などとして育てられ、出荷されています。これは大いに誇れることです。メディアに取り上げられるようになるためには、畜産を発展させ、ホームページ等で畜産の広告を出し、メディアに働きかける必要があります。



さらに、小値賀は観光業に力を入れていますが、この観光業に加え、畜産業が加われば、小値賀の知名度が今よりもっと上がると私は考えます。具体的な例として、小値賀の牛をブランドとして出すのでしょうか。五島牛があるのなら、こちらは小値賀牛を出して対抗し、また、松坂牛になっていることもアピールすれば、確実に今よりぐんと知名度が上がると思います。そして、再び小値賀の競り場で競りを行えば、畜産業が活気づいていくと考えます。その理由として、船を使わず、車ですぐに運ぶことができ、一度に多くの牛を競りに出すことができ、小値賀に多くのお金が入ってくるので、畜産農家に限らず、多くの小値賀の人々が活気づくと考えます。ですが、これらの事を行うにはいくつか問題があります。まず、畜産農家の数が減っているということです。その原因として畜産農家の高齢化が挙げられます。今の畜産農家の方々畜産をやめてしまったらどうなるのでしょうか。恐らく、もう二度と小値賀で畜産が行われることはないでしょう。この他にも、再び小値賀で競りを行うには宇久の畜産農家の同意が必要になります。今現在競りは宇久で行われていますが、小値賀側からすれば非常に不利な状態にあります。宇久での競りに参加するには、まず牛を車に乗せ、船で運ばなければなりません。その間にも、牛には相当なストレスがかかり、約十キロ体重が落ちてしまいます。小値賀で競りを行う場合、今度は宇久側が不利な状態になるので、船で運ばなければならないこと、牛へのストレスが掛からないようにしなければならないということを考慮しないとはいけません。次に、ブランドとして出すためには精肉場が必要になります。精肉場を建てるには土地を確保しないとはいけません。また、そこで働く人材を集めないといけません。そもそも、畜産業に限らず、何をするにしてもお金がかかります。例えば、牛を確保するにもお金がかかり、牛舎の建設費、維持費、牛の草を確保するための土地、草を刈るための機械類など管理がとても大変であり、また費用がかかってしまうのです。これだけの費用を個人が負担してしまったら、相当な額になってしまうでしょう。この現状では、到底畜産をしたいなんて思う人はまず出てこないでしょう。しかし、リスクを負わなければ、どんな事業もできるわけがありません。個人の負担を減らすための方法として、町に少し負担してもらい、畜産をしやすい環境を整えます。ただ整えるだけではなく、畜産をする人材を集めないといけませんので、そのためには、今ある畜産農家に協力してもらい、牛を育てる体験の機会などを設けて、畜産に興味がある人、畜産を行いたい人を集めます。その他にも、現在使われていない牛舎や建物を貸し与えます。現在使われていない畑などを牛の草を確保するための土地に変え、貸し与えます。このような対策を立てることにより、個人への負担は大分減ると私は思います。現状では、小値賀をアピールすることに関しては観光業が主となっているので、先程述べたことを行うのは、難しいかもしれません。ですが、小値賀は本当にこのままでいいのでしょうか。人口がどんどん減る中で、観光業だけで成り立っていくのでしょうか。そう考えたときにやはりもう一つ武器になるものを持っていた方がよいと思います。このもう一つの武器を持つことによって、観光業に次ぐ人口を増やすための手段になりえます。だからこそ小値賀の畜産を絶やすわけにはいきません。何をするにも必ずリスクがあるのなら、そのリスクを負ってでも小値賀の畜産を発展させていくべきです。もし、私が述べた小値賀の畜産を発展させる上で生じる問題を克服し、その問題への対策をとることができれば、小値賀の知名度が今まで以上に上がり、牛の評価ももっと上がります。また、人口も増えるでしょう。そして、私には、一つ目標があります。私が調理師となり、修行して、小値賀に帰ってきた暁には、店を建て、小値賀の牛と特産品を調理して、その料理を提供することで小値賀の発展に貢献したいと考えています。私達の故郷、この小値賀が廃れることが決まってしまうようにするためには、観光業は勿論のこと、畜産をより発展させることが必要だと私は思います。これ以上、人口を減らさないためにも、小値賀の未来を繋ぐためにも、小値賀の畜産の発展という新たな光を当て、もっと活気ある町にしていきたいと思います。私が修行を終え、立派な調理師になって帰ってくるその日まで、畜産を絶やさないでほしいです。想像してみましょう。小値賀牛が誕生している姿を、これをきっかけに小値賀の畜産が発展していくことを心から願います。